NUBIC

産学官連携コーディネーターに

文科省の配置機関に選定

本学がこのほど、文部科学省が実施する「産学官連携活動高度化促進事業」の平成19年度産学官連携コーディネーター（目利き・制度間つなぎ担当）の配置機関に選定された。東京大学など8大学が2月27日付で配置機関に決定、本学産官学連携知財センター（NUBIC）がその一つに選ばれた。

大学や高等専門学校などに配置される産学官連携コーディネーターは研究成果の社会還元を進めるために、大学等に不足する分野での実務経験を持つ人材のことで、目利き・制度間つなぎ担当は優れた研究成果を埋もれさせることなく、実用化に向けた取り組みや研究費制度へのつなぎの促進を図る役割を担う。19年度が初の試みとなり、期間は4月1日から1年。

本学では、NUBIC・松岡義人コーディネーターが担当。外部資金の申請体制・活用体制を学内に新たに組織し、シーズの戦略的創出、共同研究・受託研究などの促進、進捗状況の把握及び結果のフィードバックを実施するなどのシステムの構築及び運営に取り組む。

中国の知財制度を調査

本学産官学連携知財センター（NUBIC）の金澤良弘副センター長（大学院総合科学研究科教授）をはじめとする5人の調査グループが2月1日から7日まで中国を訪れ、産官学連携と知的財産制度について現地調査を行った。

北京大学＝写真＝など2都市11カ所を調査した一行は、本学と同国の大学などとの知財面での協力、交流の促進が必要との認識を強くして帰国した。同調査は、文部科学省が採択する知的財産本部整備事業の一環。

一行が訪れたのは北京大学、清華大学、上海交通大学の各知財部門のほか、政府機関の中国社会科学院など。

中国では経済の成長に伴い、日本からの特許出願が増加、本学も26件出願している。一方で、出願時の誤訳などが問題になっている。

北京大学が出資した企業の売り上げ総額が330億元（約5000億円）に達するなど中国では主要大学を中心に産学連携が強力に推し進められており、一行は北京大学知識産権センター主任の陳美章教授、清華大学知識産権センターの王兵教授らと産学連携や大学発ベンチャーなどに関して情報交換を行った。

西田君（長崎高）ら特選に

☆―付属高校文芸コンクール―☆

本学付属高校生が参加する第24回文芸コンクールの入賞者表彰式が2月14日、日本大学会館大講堂で、生徒、選者、付属高校長ら約140人が出席して行われた＝写真。

文芸コンクールは、俳句、短歌、詩、小説、読書感想文の5部門で行われており、今回は付属23校の3万9985人から7万8261作品の応募があった。この中から特選の4人（俳句は特選の該当者なし）に小嶋勝衛総長・理事長から賞状と盾が贈られたほか、この3年間連続入賞した5人に特別賞が贈られた。

小嶋総長・理事長は「コンクールに応募した熱意、本日の受賞の栄誉を忘れず、今後の人生に役立ててほしい」と激励。入賞者を代表して、小説部門特選の西田裕亮君（長崎高3年）が「これからも技量を高められるよう精進します」と謝辞を述べた。

そのほかの特選、特別賞の受賞者は次の通り。（敬称略）

【特選】短歌＝小泉かおり（東北高3年）詩＝榎戸朝子（岩瀬高2年）読書感想文＝森田彩樹（長崎高2年）

【特別賞】岡田直子（日本大学高）長谷部美幸（櫻丘高）山崎ゆかり（豊山女子高）飯嶋志保（明誠高）佐藤亜美（東北高）

経済学部長に小椰教授

小椰治宣教授

大学は3月9日の理事会で、経済学部長に小椰治宣教授が就任することを承認した。任期は4月1日から3年間。

経済学部は、牧野富夫学部長が3月31日付で辞任することに伴い、2月9日に学部長候補者選挙と学部長選挙を実施した。

学部長候補者選挙では小椰治宣、本多光雄、野口建彦の3教授が候補者に選出された。引き続き開かれた教授会で学部長選挙を行ったが、会員総数の過半数を得た候補者がいなかったため、小椰教授、本多教授の上位2人で再投票。その結果、比較多数を得た小椰治宣教授を当選者とした。

小椰治宣（おなぎ・はるのぶ）教授　昭和60年3月大学院経済学研究科博士後期課程満期退学。平成12年経済学部教授。専門は社会保障論。学務担当、学部次長などを歴任。千葉県出身。49歳。

ようこそ！小嶋総長

NU―SAT　豊山高校訪問

総合学術情報センターが制作するNU―SAT番組「総長高校訪問・ようこそ！小嶋先生　豊山高校編」の収録が2月15日、同校で行われた＝写真。

この日、小嶋勝衛総長・理事長が昼休みの時間に訪れると、高校・中学の全生徒が、校庭に集まり、教室の窓から身を乗り出すなどして拍手で迎えた。放送部員2人の案内で校内を巡り、プラネタリウム館で中学2年生の理科の授業を一緒に受けたほか、高校2年生の書道の授業を参観した。

高校1年生と教室での話し合いも持たれた。生徒たちからは「少年時代の夢は？」「趣味は？」といった質問から「共学化が進む中での男子校の存在意義は？」「大学全入時代の日本大学の対策は？」など、現実を見据えた質問も相次いだ。

このあと、部活動を見学。吹奏楽部の演奏を聴き、同高校が誇る水泳部や卓球部の練習を見て回った。小嶋総長は「皆さんの元気な姿を見て感激しました。これからも一緒に頑張りましょう」と呼びかけ、運動部員たちに見送られながら同校を後にした。この模様は3月1日に日大テレビで放映された。

勝又さんが最優秀賞に

建築家を目指す学生の登竜門、東京電力主催の「第10回TEPCO快適住宅コンテスト提案部門『インターカレッジデザイン選手権』」の2次（最終）選考が1月21日、東京・三田の日本建築学会建築会館ホールで行われ、大学院理工学研究科2年の勝又洋さんが最優秀賞を受賞した。全国から349作品の応募があり、書類審査で選ばれた10作品により争われた。

選手権のテーマは「現実を虚構化する住宅／虚構を現実化する住宅」。勝又さんの作品は不透明な壁を開くことで、現実と虚構の境界線を強調した「ガラス窓のない家」＝写真。審査員の一人は「装飾を取り除き、原初的な建築の姿で現実と虚構を示すダイレクトさが素晴らしい」と評価した。

畠山さんに広告電通賞

高校生・大学生に広告とコミュニケーションについての理解促進を目的にした「第59回学生広告論文電通賞」で、商学部4年の畠山仁友さんが大学生個人の部で1位となった。贈賞式は今月28日に行われ、文部科学大臣奨励賞などが贈られる。

今回の課題は「新時代の広告」で、畠山さんは二つのデザインを提案した。圧倒的な量を持って広告を現象化させる「フラッシュ型広告」と、新時代の理想のデザインとして「空白のデザイン」という斬新な内容。受賞は、現代社会を読み解く言葉とその概念を豊富に有し、駆使したところを評価されたといえる。

千代田区と災害時協定

本学は2月1日、千代田区と「大規模災害時における協力体制に関する基本協定」を結んだ。

地震などの大規模災害が発生した場合に区民や在勤者らの安全確保を図るための協力体制であり、平常時よりその整備を目的としている。協力内容は、派遣要請のあった被災場所などへの学生ボランティアの派遣、帰宅困難者らの一時的避難施設の提供、大学施設収容の被災者への医療資材・備蓄物資の提供などで、このため学生ボランティアの募集、登録、養成を行うことになる。

明治、法政、専修、東京電機、上智の区内5大学も協定を締結している。

「常に自己研さんに励め」

☆―18年度付属校卒業式―☆

平成18年度付属高校・中学校・小学校・幼稚園の卒業（園）式が3月1日から22日にかけて行われている。学務部付属学校課によると、今年度卒業（園）する生徒・児童・園児は1万2663人（3月9日現在）。

このうち明誠高校の第45回卒業式は3月1日、同校講堂で小嶋勝衛総長・理事長らを来賓に迎え、教職員、卒業生、保護者ら約1100人が出席して行われた＝写真。

国歌斉唱に続き卒業生316人を代表して秋山達哉君に卒業証書が授与された。学業部門で総長賞の大島隆史君には小嶋総長から賞状と記念品が手渡された。このほか、校長賞、日本私立中高等学校連合会会長賞なども授与された。

式辞で前田勝幸校長は「本日は新たな目標に向かって自覚、決意をより力強く抱くスタート日だ。個性、長所を伸ばす努力をし、前向きに生きていってほしい」と述べた。続いて小嶋総長が告辞で「本学付属校の卒業生であることを誇りとし、常に自己研さんに励み、個性豊かなコンペイ糖型人間になってほしい」と激励した。

このあと、来賓祝辞、校歌斉唱をして閉式。卒業生は在校生らの手拍子で見送られ学び舎を巣立った。

総長日誌

2月1日　千代田区災害協力基本協定締結式
5日　校友会東京第五支部新年会
7日　全私学連合懇談会
9日　剣道部優勝祝賀会
10日　校友会群馬県支部総会
14日　合同企業研究会・就職セミナー視察。千代田区都市計画審議会。文芸コンクール表彰式
15日　収録：NU―SAT総長高校訪問
16日　私大連雇用保険問題検討プロジェクトチーム検討会
20日　私大連理事会・臨時総会
23日　まちみらい千代田理事会
27日　大学基準協会理事会
28日　取材：月刊「不動産流通」